

ひとづくり

第9号

弓削商船高等専門学校 情報工学科 広報誌 2015(平成27)年10月発行



国際シンポジウムで「ベストプレゼンテーション賞」を受賞

専攻科生産システム工学専攻（情報系）2年生・田頭香奈子さんは、8月、マレーシアで開催された「ISTS (International Symposium on Technology for Sustainability) 2015」(和訳：持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関するシンポジウム)において、専攻科での研究成果を発表し、「ベストプレゼンテーション賞」を受賞しました。今年のシンポジウムには、アジアや日本から総勢100名を超える大学生や高専生が参加し、表彰を受けた6名の学生の一人に選ばれました。田頭さんは、「シンポジウムに参加して、日本の高専生だけでなく、アジアの大学生たちとも交流でき、彼らのモチベーションの高さに大いに刺激を受けた」ようです。

就活女子対象の身だしなみ講習会を開催



4月15日(水)、本校の5年女子学生を対象に、資生堂(株)から講師を招き、「身だしなみ講習会」が実施されました。この講習会は、社会人としての身だしなみや、職業人として兼ね備えるべき接遇態度などを身につけることを目的に実施されたもので、今年度で3回目の開催です。

学生は、レッスンを受けながら実際に就活メイクにチャレンジしました。学生にとってメイクレッスンを受けるのは初めての体験であり、非常に興味のあることです。全員、積極的に聴講し、和気あいあいとした場になりました。参加学生からは、「メイクについてあまり詳しくない私でも分かりやすく、講習会の雰囲気もよくて楽しく学ぶことができました」などの感想が聞かれました。今後の就職活動を行うにあたり、非常に有意義な講習会となったようです。

バンダイナムコエンターテインメントの「カタログオープンIP化プロジェクト」に参加



©BANDAI NAMCO Entertainment Inc.

情報工学科では、(株)バンダイナムコエンターテインメントが進める「カタログオープンIP化プロジェクト」<https://open.channel.or.jp/>に参加しました。「パックマン」「ギャラクシアン」など、同社のIP(知的財産)を用いた二次創作などを行うことができますようになります。創造性実験、プログラミング演習、3Dプリンタ演習などで利用予定です。あなたもゲーム作成にチャレンジしてみませんか?

2部門3チームが本選へ 全国高専プロコン



毎年優秀な成績を修めている全国高等専門学校プログラミングコンテストですが、今年度は、168チームの応募がありました。本校からは4チームが応募した結果、厳しい予選を勝ち抜いた自由部門2チーム、競技部門1チームが本選に駒を進めました。企画段階から現地調査を行い、夏休みを活用してシステム開発に取り組んでいます。

本選は、10月11日、12日に長野県長野市ホクト文化ホールで開催されます。

○自由部門 Smart AIS ～海内の旗幟～

HAL2015 ～HeartupActiveLearning～

○競技部門 酸滴石穿

オープンキャンパスを開催



7月25日、26日の両日、「オープンキャンパス」が開催されました。本年度の情報工学科の紹介コースへの参加生徒数は、119名（平成26年度は、103名）で、昨年度より約1割程度増加しました。

当日は、「学科概要」、「創造性実験の実演展示」、「プログラミング教育作品の紹介」、「iPadによる模擬授業」、「ロボコンの実演」等、短時間に盛りだくさんの内容を体験、見学していただきました。

参加者からは、「是非、入学してコンピュータの勉強をしてみたい」、「興味が持てた」等の感想をいただきました。

全員の進路決定！今年度も就職内定率100%達成



9月初旬、情報工学科5年生と専攻科の就職希望学生31名（本科26名、専攻科5名）が、全員内々定しました。近年の景気回復の影響もありますが、社会における高専学生のニーズが高まり、情報工学科と専攻科の求人倍率は、7月末で約18倍を超えていました。

主な就職活動は、4年次のインターンシップからはじまり、希望調査、卒業生を招いて就職講演会、合同企業説明会、講師

を招いて擬似面接対策（写真）などを行います。このような手厚い就職指導と高専独自の学校推薦制度、および5年間の一環したカリキュラムで即戦力となる学生を育成をする成果が、内定率100%を達成させています。

今年度の就職先は、富士通、日立関連、三菱電機関連、JFE、マツダなど電気メーカーや製造業が最も多く、次いでチームラボ、NTT関連、富士ソフトなどの情報通信業となっています。また、進学先は、東京工業大学、徳島大学、京都工芸繊維大学、本校専攻科（すべて国立）です。

四国高専体育大会3連覇などで優秀選手賞を受賞



近年の陸上競技における実績が評価されて、情報工学科4年の白川友理さんに、一般財団法人愛媛陸上競技協会から優秀選手賞が授与されました。これまでの白川さんの主な実績は、以下の通りです。

- ・四国地区高専体育大会陸上競技女子800mの部3連覇
- ・平成26年度全国高専体育大会陸上競技女子800mの部優勝
- ・平成26年度愛媛県体育協会優秀スポーツ選手賞受賞
- ・平成26年度四国地区高校総合体育大会陸上競技女子800mの部7位入賞

オーストラリアでの語学留学を終えて



私は専攻科1年修了時にオーストラリアのブリスベンに語学留学しました。4月末から留学し、就職活動に合わせ2月末に帰国し、計10ヶ月間過ごしました。費用は、出発前（保険、飛行機代、ビザ費用など）と現地（生活費、旅行費、交際費など）を合計し約300万円ほどでした。この留学にあたって、私は“国の教育ローン”という制度を利用し250万円借りました。私は、滞在中に旅行に行ったので儉約すればもっと安く費用を抑えることができると思います。

費用を借りてまで留学しようと考えた理由は3つあります。1つ目は、自分の英語力にコンプレックスを感じていたからです。英語が堪能であればエンジニアとしてひとつのアドバンテージになると考えました。2つ目は、いろんな人とコミュニケーションをとりたいたいからです。英語を使えることで友達の幅もぐんと広がると考えていました。最後に、夢中になれるものを探したかったからです。

こうして、「行けばどうにかなるだろう」精神で私の留学生活は幕をあげました。

着いて1週間ほどは、ホストマザーの問いかけに対し、彼女のアクセントの強い英語が理解できなかったり、自分の意見はあるのに英語で返すことができなかったりで、悔しい気持ちになりました。しかし、慣れてくるとだんだんと自分の意見や考えを伝えることができ始め、自分らしさを出せるようになりました。学校は朝9時からお昼の2時半までなので放課後は語学学校の友達と過ごしました。費用を抑えるために、到着してから1ヶ月後にシェアハウスに引っ越して約9ヶ月を過ごしました。最終的にオーストラリア人、韓国人、台湾人、日本人と同居しました。食事の時間は、リビングに行けば大抵誰かいるので一緒に食事したり、クリスマスやお正月を一緒に祝ったりと皆が家族のような存在になりました。

帰国後は、グローバルに展開していることや、エンジニアの情熱にときめきを感じた、自動車メーカーを受け内定を頂きました。その面接では、挑戦力やTOEICが約350点上がったことを大きく評価してくれました。また、8月上旬に開催された国際シンポジウムでは自分の研究内容を英語で発表し、賞を頂くことができました。

私が留学して得たものは、英語力だけではありません。世界中にいる友達、一緒に過ごしたオーストラリアの家族、チャレンジする気持ち、どうにかなるというポジティブ精神など、数えきれません。英語を話せるということはすべてではなく、ひとつのきっかけでしかないことを痛感しました。皆が考えている海外との壁は英語ではなく、心の壁です。少しでも留学を考えている下級生がいれば是非チャレンジして欲しいです。最後に、この場を借りて、留学生活を支えてくれた家族、友達、先生に感謝の気持ちを記します。（専攻科2年 田頭 香奈子）



国立弓削商船高等専門学校

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000 番地

<http://www.yuge.ac.jp/> 0897-77-4620

題字：馬越 唯（平成23年度情報工学科卒業生）

コンピュータ教育を通して、社会に役立つ「ひとづくり」を目指します。